

第2回 羽村市まち・ひと・しごと創生計画懇談会 グループディスカッション

2015/07 2015/06/25 201・202会議室

重点プロジェクト2「はむらで子育てしようプロジェクト～子育てのまち はむらブランドの創出」

グループ	議論内容	懇談会での発表(要約)
田嶋委員、伊藤委員、清水委員、小林委員	<p>・0～3児の保育拡大 待機多い ・兄弟別々の保育園の問題 ・放課後サポートが良い 4年生以降の集まる場所があるのが良い 内容を良くしていく 学童も内容を楽しいものにしていく。 子供達で楽しいイベントを企画する→実行。サポートではなく。 3年生以降も友達と遊べる場が必要。 ↓ 周りの大学生さん、学生さん達に参加してもらおう！</p>	<p>・0～3歳児保育の拡大や兄弟別々の保育園に通う人をケアしていくことが必要。 ・小学4年生以降の居場所がない。 ・学童の内容を充実し、イベントを企画して盛り上げて楽しみ、サポートも必要。大学生に学童サポートに加わってもらい、みんなで盛り上げていく。</p>
大和田副会長、池田委員、高橋委員、山本(哲)委員	<p>はむらで子育てしよう 公園がない。幼・保がない 江戸川区の出生率が一番高いのは 子どもに25000円/月 充実している 公園面積も大きい 若い世代が住むために子どもや母親にやさしい市→子育てのまち こども絡みのものに金をだす。集中戦略。 羽=angel 徹底的に プロジェクト2をやること 妊娠・出産の費用をすべて市がもちます</p> <p>あそびにくる人、学生を集めても(税金)お金につながらない。 家を買って住む、買物する人を増やす方法を考える。</p> <p>高齢者、日の出も100万円支給？で住民が増えている。 高齢者を集めるよりも集中を選択。 <子どもにお金をつかおう></p>	<p>・羽村市の羽=子育ての天使(エンジェル)の羽としてシンボルにする。子育ての施策は多いが、重点プロジェクト2を徹底的に取り組むべき。(妊娠・出産費用を市が全部持つ、子どもの人数に応じた補助金など、子育てにお金を集中させてはどうか。)家を買って住んで、買い物をする人を増やすことを具体的な施策にしたほうがよい。</p>

第2回 羽村市まち・ひと・しごと創生計画懇談会 グループディスカッション

2015/07 2015/06/25 201・202会議室

重点プロジェクト2「はむらで子育てしようプロジェクト～子育てのまち はむらブランドの創出」

グループ	議論内容	懇談会での発表(要約)
勝山委員、 寺島委員、 渋谷委員、 羽村委員	<p>子育て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(京都の)保育園が良い <ul style="list-style-type: none"> →男の先生が多い サイクリング、祭り等活動的 大きくなった子供達が、良かったと言える。 ・羽村で子育てをする <ul style="list-style-type: none"> →遠くからいらっしゃった方 病気を含め、頼れる所が無い。 病後児保育はあるが、病児が必要！！ <p>(地域)場所により、お客さまの違いあり。 仕事が遠いと、すぐに戻れない。 [病児保育]には、公的支援が必要。</p>	<p>・羽村らしさとして、病後児を対応してはどうか。民間では無理なことを、公的資金を使って病児対応し、仕事をしながら子どもを預けられるとなれば、で羽村市に人が集まる。</p>
岡委員、 山本(三)委員、 宇津木委員、 折原委員	<p>【はむらで子育てしようプロジェクト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・待機児童対策、スタッフの充実(数) ・共働き世帯に対する子育ての支援 <ul style="list-style-type: none"> ・ハードの充実？ 子育て支援度(高い順から) <ul style="list-style-type: none"> ・学童保育 ・ボランティア ・子供が集まる ・子育てのメンタル的な支援(ママさん向け) ・都内初？の第3子以降補助金 ・コンテンツとしての必要性≠はむらブランド→目立つこと 	<p>・子どもの預け先が不足している。子どもの居場所を作るにはハード面、ソフト面が必要だが、母親のメンタル支援も必要。必要なコンテンツだが、「羽村ブランド」として成り立つか。多少奇抜な施策も必要ではないか。</p>